

中

一

乗

昇

(第3種郵便物認可)

2010.2.22

夕刊

文化

大学博物館が連携

『万人に開かれた施設を』

学芸員配置の義務化求める

大学の付属博物館が連携して運営ノウハウを共有しようという取り組みが始まった。多くの大学が生涯教育の一環として博物館事業に力を入れているが、人員不足など課題を抱える博物館も多い。連携していきながら、文部科学省に対しては法律の整備を求め、運営の充実を図る方針だ。

大学博物館は全国に三百五十館ほどあり、年々増加している。少子化で大学経営が苦しくなるなか、学生以外の幅広い年齢層を学内に呼び込むことができる博物館が見直され、開館が相次いでいるためだ。

明治大で昨年十二月、「ユニバ

ーシティ・ミュージアム・ミーティング」が開かれた。参加したのは、三十七の大学博物館の担当者。坪内逍遙を記念した早稲田大演劇博物館や、旧制第一高等学校図書館を使っている東京大駒場博物館、愛知大の東亜同文書院大学記念センターなど、各館の所蔵品の特色や企画展の内容などが報告された。

博物館法では、地方自治体や財団法人などがつくった博物館には、調査研究や展示の業務を担う専門職の学芸員を配置するよう義務付けているが、大学博物館は、この法律が適用されない。経営上、専任の学芸員を置くことが難

しい大学も多く、事務職員が学芸員を兼ねている例もある。ミーティングでは「常勤の学芸員をこのようにして受け入れるか



大学博物館の現状と課題が報告された。東京都千代田区の明治大で

が課題」（日本大生物資源科学部博物館）、「ボランティアの協力が大きい」（和洋女子大文化資料館）という意見も聞かれた。他の博物館にも参加を呼びかけ、八月に予定している二回目の会合で正式に連携組織を発足させる。所蔵資料を研究・公開する体制を整えるため、文科省に、学芸員配置を義務化する法整備などを訴えていくとともに、大学側にも研究費の増額などを求める方針だ。

呼び掛け人の一人で前明治大博物館事務長の伊能秀明・同大中央図書館事務局長は「現場からは深刻な声が寄せられている。大学はとかく閉鎖的と思われがちだが、万人に開かれた博物館の活動を通じて社会貢献を活性化させたい」と話している。（栗原淳）

*「思いつままに」は休載しました。



愛大出身の有名人紹介

ゆかりの品や 豊橋校舎の歴史コーナーも
写真を展示



愛知大学出身の有名人や、同大豊橋校舎の歴史を紹介する展示会が、同大豊橋校舎大学記念館展示室で開かれている。19日まで。

有名人を紹介するコーナーは、中日ドラゴンズの岩瀬仁紀投手をはじめ、写真家の東松照明氏、樹研工業社長

の松浦元男氏、日本画家の平松礼二氏、日本のファンタジーノベル大賞の第1回大賞を受賞した酒見賢一氏らの写真や作品が並ぶ。岩瀬投手は直筆サインが入ったボールや野球帽も展示されている。

豊橋校舎の歴史を紹介するコーナーでは、
(竹下貴信)

東愛知新聞 2010年6月6日(日)

愛知大の歴史紹介

愛知大卒業生の活躍や大学校舎の資料を展示した「愛知大学史企画展示」が、豊橋市町畑町の愛知大記念館展示室で開かれている。十九日まで。

愛大は戦前に中国・上海にあった東亜同文書院大が前身

豊橋で展示

で、一九四六（昭和二十一）年に開学した。展示室の一室では四七年以降の著名な卒業生を資料で紹介している。写真家の東松照明さんや画家の平松礼二さん、最近では中日ドラゴンズの岩瀬仁紀投手にゆかりの品もある。

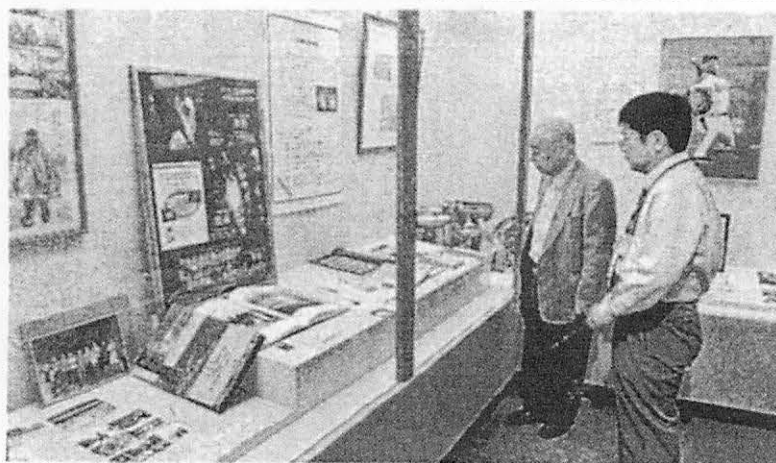
もう一室では愛大の豊橋校

著名卒業生や校舎資料も

舎の歴史を展示。愛大の敷地は戦前、第十五師団など陸軍施設があった場所で、洋風建築の記念館も師団司令部として使われていた。屋根にあった旧陸軍の星のマークが入った鬼瓦などを展示し、愛大旧公館を皇族が使ったことも説明している。

愛大の東亜同文書院大学記念センター長の藤田佳久教授は「卒業生の活躍や成果を見て、今の学生にも頑張ってもらいたい。校舎の資料からは軍都から近代化した豊橋の歴史の一端がうかがえる」と話している。入場無料。日曜と月曜休館。

（石屋法道）



卒業生にゆかりの品や大学校舎の歴史にまつわる資料が並ぶ企画展＝豊橋市町畑町の愛知大で

中日新聞

2010年6月10日（木）

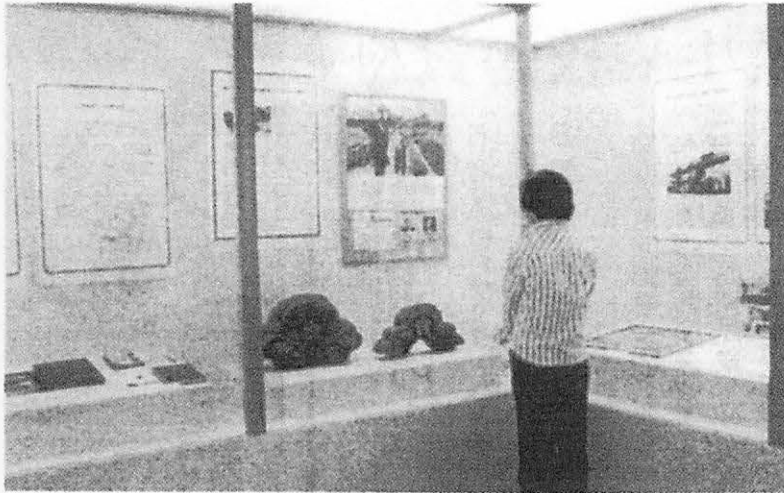
大書院
文書
同文
記念
東学

「愛知大学史企画展示」

写真や年表で歴史紹介

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、19日まで同大学豊橋校舎大学記念館展示室で、「愛知大学史企画展示」を行っている。展示は2室で、創生期を中心とした「学生・卒業生の活躍のあゆみ」と、「旧陸軍施設について紹介する「豊橋校舎の地が軍隊の敷地だったころ」。

学生・卒業生の活躍のあゆみでは、年陸軍の敷地だったことを示す企画展示（愛知大学豊橋校舎で）



代不明の卒業式、入学式の珍しい集合写真をはじめ、創生期のころの運動部、文化部が活躍した栄光の軌跡を示すカット

プ、トロフィー類、卒業生の写真家・東松照明、画家・平松礼二の作品、中日ドラゴンズ・岩瀬仁紀投手のパネル写真、サインボール、帽子などが展示されている。

戦前の豊橋校舎では、第15師団創設から廃止。その後、陸軍教導学校、予備士官学校となった歴史

が年表、パネル写真などで紹介されている。陸軍の星マーク入り鬼瓦も展示され、旧陸軍の施設であったことが一目で理解できる。

（鈴木良征）

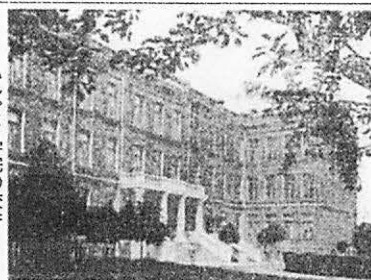
2010年(平成22年)7月16日(金曜日)

戦前の中国、旧満州に設立の教育機関

卒業生らあす講演

京都のホテル

言置 (第3種郵便物認可)



ハルビン学院の校舎

愛知大学(本部・豊橋市)の東亜同文書院大学記念センターは戦前、中国や旧満州にあった日本の高等教育機関に関する講演会(読売新聞大阪本社など後援)を、17日午後1時半から京都市中京区柳馬場のホテル「コープ・イン・京都」で開催

する。東亜同文書院や建国大学などで学んだ人たちが、自分の数奇な人生を振り返るとともに、今日の日中関係のあり方にメッセージをおくる。各教育機関についての資料展も17、18日、同ホテルで開かれる。アジアへの権益拡大に伴って海外にも日本の高等教育機関が設立された。愛知大学の前身、東亜同文書院大学はその第1号で、1901年に上海に開校、45年に閉鎖されるまでに約5000人が卒業した。今回は、その卒業生で元ルーマニア大使の小崎昌業さん、旧満州にあったハルビン学院で学び、終戦によ

り中退した経験を持つ元山形地検検事正の谷藤助さん、同じく旧満州の新京(現・長春)にあった建国大学を中退した貿易会社経営佐藤達也さんらが、それぞれの半生を振り返る。また、日中友好の理念と人材養成の必要性を掲げ、東亜同文書院誕生に貢献した荒尾精の追悼碑が同市左京区に残されており、18日に追悼式も行われる。

京都新聞

23 関西広域

上海・東亜同文書院
京とのゆかりたどる

17・18日、資料展

かつてビジネススクールとして中国・上海市に設置された「東亜同文書院」の歴史や京都との関係をたどる、講演会と資料展示会が17、18日に京都市中京区柳馬場通蛸薬師上ルのコープ・イン京都で開かれる。13:30から同院は現在の愛知大学の前身で「東亜同文書院大学記念センター」として名を残している。入学者には毎年京都府出身者がいたほか、創設にかかわった軍人、荒尾精の追悼碑が左京区若王子町に残るなど、京都とのゆかりが深いという。

資料展示会は両日の午前10時から午後6時まで。[講演会は17日午後1時半からで、卒業生や研究者が発表する。

入場無料。同記念センター☎0532(47)4139。

戦前の中国での経験語る 現地の日本教育機関のBら

京都



思い出を語る谷さん

戦前、中国にあった日本の大学の卒業生らによる講演会「大陸にあった日本の高等教育機関と東亜同文書院」が17日、京都市中京区のホテル「コープイン京都」で開催され、ハルピン学院最後の卒業生で元山形地検検事正・谷藤助さん(84)らが、揺れ動く時代の中での学業、数奇な体験などを通じて培った国際感覚

や中国への愛着を語った。愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催、読売新聞大阪本社など後援で、同窓生ら約100人が集まった。会場では18日まで資料展も開かれている。

谷さん以外の講師は、建国大学を出た日中貿易会社経営・佐藤達也さん(84)、東亜同文書院大学の元ルーマニア大使・小崎昌業さん(88)ら。

愛知大学は上海にあった東亜同文書院を前身に、海外の教育機関の在校生らを引き受ける目的で、終戦直後に開校された。同大では4年前から、全国で書院と日中関係史を紹介する資料展示会・講演会を開催し、京都は5か所目。今年11月には名古屋でも開催される。

(2010年7月18日 読売新聞)

2010年(平成22年)7月19日(月曜日)

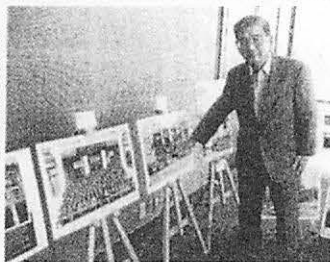
言説

賞

衆評

民評

展示されたハルピン学院入学式の写真について説明する谷藤助さん(中京区で)



18日も会場では資料展が開かれた。

戦前、中国にあった日本の大学の卒業生らによる講演会「大陸にあった日本の高等教育機関と東亜同文書院」が17日、中京区のホテル「コープイン京都」で開かれ、ハルピン学院最後の卒業生で元山形地検検事正・谷藤助さん(84)らが、揺れ動く時代の中での学業、数奇な体験などを通じて培った国際感覚や中国への愛着を語った。愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催、読売新聞大阪本社など後援で、同窓生ら約100人が集まった。18日も会場では資料展が開かれた。

東亜同文書院OBら
戦前中国体験講演
中京

谷さん以外の講師は、建国大学を出た日中貿易会社経営・佐藤達也さん(84)、東亜同文書院大学の元ルーマニア大使・小崎昌業さん(88)ら。

愛知大学は上海にあった東亜同文書院を前身に、海外の教育機関の在校生らを引き受ける目的で、終戦直後に開校された。同大学では4年前から、全国で書院と日中関係史を紹介する資料展示会・講演会を開催し、京都市は5か所目。今年11月には名古屋でも開催される。

2010年(平成22年)7月30日(金曜日)

言

言

東亜同文書院大学 学長らの資料展

愛知大、山形で来月

愛知大学(本部・豊橋市)

は、日本最初の海外高等教育機関として、終戦まで中国・上海にあった東亜同文書院大学の資料展を、8月28、29の両日、山形県米沢

市花沢町の東部コミュニティセンターで開催する。書院大学最後の学長だった本

間喜一(1891～1987)の写真が米沢市に隣

接する川西市

出身だった縁

で実現し、本

間に関する資料も多数展示される。



本間は戦後直後、書院大学の精神を継承する愛知大学の開校にも奔走し、1946年11月創立にこぎ着けた。2代、4代の学長を務めたほか、最高裁判所の初代事務総長としても活躍した。

28日午後1時半からは、その人間像や、書院大学、愛知大学での活躍を中心とした講演会「米沢が生んだ本間喜一をめぐって」が東部コミュニティセンターで開催される。入場無料で参加自由。問い合わせは愛知大東亜同文書院大学記念センター(0532・47・4139)へ。

本間喜一(川西出身) 功績知って

在上海の教育機関「東亜同文書院」最後の学長

愛知大を創設 最高裁の事務総長を務める

戦前の半世紀にわたり中国・上海にあった日本の高等教育機関「東亜同文書院」。日中友好提携の人材養成を目的に設置された同書院には、日本から優秀な学生が多数入学した。この大学の最後の学長を務めた故・本間喜一が川西町出身であることは地元でもほとんど知られていない。帰国後は、愛知大（愛知県豊橋市）の創設者となり最高裁判所事務総長も務めた。本間の功績を紹介しようという資料展示会などが28、29日、米沢市内で開かれる。

東亜同文書院は、戦前、海
外に設けられた日本の高等教
育機関として最も古い歴史を
持つ。1901（明治34）年

に専門学校として開校し、後に大学に格上げされた。日中に第3代学長に就任。戦争の



東亜同文書院大の最後の学長で愛知大創設者でもある
本間喜一（川西町出身）

今月末 米沢で資料展、講演会

混亂の中で大学の歴史が閉じ
る瞬間に立ち会った。帰国後
は引き揚げ学生の受け皿とし
て愛知大の設立に奔走。自ら
学長に就く一方、法律家とし
ては、新憲法の下で最高裁判
所初代事務総長も務めた。

会場は米沢市東部コミュニティセンター。展示会では、

愛知大東亜同文書院大学記
念センターや故人を知る県内

資料やパネルで本間の歩みなどを紹介する。愛用していた

関係者によると、本間に1891(明治24)年に玉庭村(現川西町)で養育された小

愛知大創立一周年記念に当時の最高裁判所長官が寄せた卦

池家に生まれた。小学校時代から成績は拔群。本間家に養

の最高委員長官が署名した指
け軸、中日友好協会（中国）
会長が病末の本間に送った見

子に入り、中学以降は東京で
過ごして東京帝大を卒業し

舞いの書などもある。28日は午後1時半から講演会があ

た。現在の司法試験に当たる試験をトップで合格する秀才

り、長女殿岡晟子さんが「私の父 本間喜一を語る」と題

だったという。川西町には少年時代しかいなかったもの

して講演するほか、愛知大の教授らが、置賜地方の歴史風

の、引き揚げ後は毎年のように家族で米沢市の白布温泉に

土が本間に与えた影響などを解説する。入場・聴講無料。

避暑に訪れるなど、置賜のかかわりを保っていたとい

同センターは一本間の進取の気性は置賜地方の伝統と文

亡くなった。

化にほくまれたもの。古里の人々に広く本間のことを知

戦口戦後の日本の禁育と妻
判制度に大きく貢献した本間
の足跡を古里の人々に知って

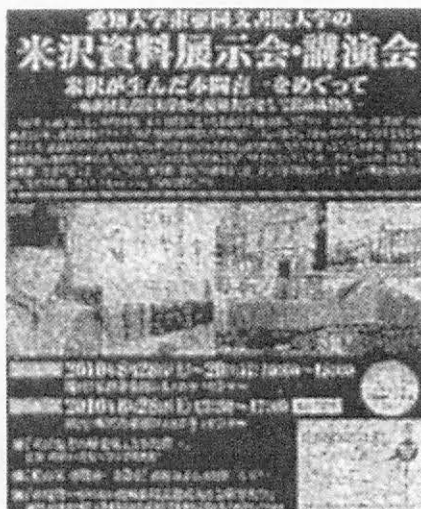
る。問い合わせは同センター。

米

澤

新

2010年(平成22年)8月12日(木曜日)



「本間喜一」を知っていますか？

資料展示と講演会を開催

東部コミセン 28・29日

「義・仁・愛」に満ちた教育者、本間喜一の資料展Ⅱ写真Ⅱが8月28、29日の両日、米沢市の東部コミニティセンターで開催される。

本間喜一長女殿岡晟子(あきこ)氏による「私の父本間喜一を語る」の講演会がある。

本間は、1891年川西町玉庭に誕生、東京帝国大学法科卒業、検事・判事に就任。1944年東亜同文書院大学長、1947年最高裁判所初代事務総長に就任。

東亜同文書院大学の上海接収により、同大学の職員、引上げ学徒を収容する大学を国内に求め、「世界文化と平和に寄与すべき新日

本の建設に適する国際的教養と視野を持つ人材の育成」を建学の趣旨に、中部地方唯一の旧制法文系大学として豊橋市に誕生した愛知大学設立に奔走。2代、4代の学長をつとめた。

東亜同文書院は1901年、東亜同友会(会長・近衛篤磨貴族院議長)によって中国の上海に設立された。日中友好提携の人材養成を目的とし、戦前海外に設けられた日本の高等教育機関として

ては、最も古い歴史をもつ。

アジアの国際都市上海に置かれ、学問の自由を尊ぶ学風のもと、中国・アジア重視の国際人を養成した。大陸に憧れ中国の人々との善隣友好を願う学徒たちが、全国から集い学び、日中関係に貢献する多くの人材が巣立っていった。

しかし、日中・太平洋戦争という日中関係の苦難の時代に翻弄され、1945年9月、中国側の接収によって、半世紀にわたる歴史に幕を閉じた。

(愛知大学東亜同文書院大学記念センター発刊書籍より)

愛知大創設者の一人



戦前は軍都として栄えた豊橋市の旧陸軍施設の跡地に一九四六(昭和二十一年)年、愛知大が誕生した。その創設者の一人が本間喜一。今も残る当時の学長室に、ひととき大きな写真が掲げられている。

愛大の歴史は一九〇一(明治三十四)年から四五年まで中国・上海にあった「東亜同文書院大学」にさかのぼる。日本の海外高等教育機関として最も古い歴史を持ち、四十五年間で五千人の学生が学んだ。

「愛知大学東亜同文書院大学記念センター」によると、本間は書院大の

最後の学長。山形県南部の出身で、東京帝国大学法学部を卒業後、検事や判事、弁護士を務め、四〇年に中国に渡り書院大の教授となった。

しかし、終戦により大「おれは三河人だ。やる。藤田佳久教授(六)は語る。本間は敗戦後の超インフレを見通し、書院大の資産をフォードの新車の視点を持った大学経営と金の延べ棒に換えて維持した。藤田教授は「本

間先生は第一次世界大戦後のベルリンでインフレを経験したこともあり、非常に実践的な人だった」と評する。

愛大の文字通りの創設者といえる本間。しかし、初代の学長にはならなかった。「書院時代に学生を戦地にやって死なせた。だから初代学長は引き受けられない」。それが固辞の理由だった。本間は一度、豊橋を離れ、最高裁判所初代事務局長に就任。その後、再び愛大に戻り、二代学長(一九五〇～五五年)、ここにあった。

責任感強く庶民の視点

当時の横田忍・豊橋市長や地元の政財界人が誘致に動いた。横田市長は「本間先生がいなかったら愛知大はなかったのだ」と同センター長の

間先生は「人命は地球より重い」「大学は家庭と同じ。生徒は子どもだ」とメッセージを発し、全国から搜索支援金を集めた。結果的に十三人全員が亡くなると、学長を辞職した。

本間の功績は近年、再評価されている。記念センターの一室には二〇〇七年十一月、本間喜一展示室が完成。帽子やステッキなどの愛用品とともに、本間が中国の書院大から持ち帰った学籍簿や成績簿が並ぶ。豊橋での大学教育の「原点」がそこにあった。

ほんま きいち
本間 喜一
(1891~1987)



本間喜一の写真が掲げられた当時の学長室＝豊橋市の愛知大東亜同文書院大学記念センターで

四代学長(五九～六三(石屋法道)

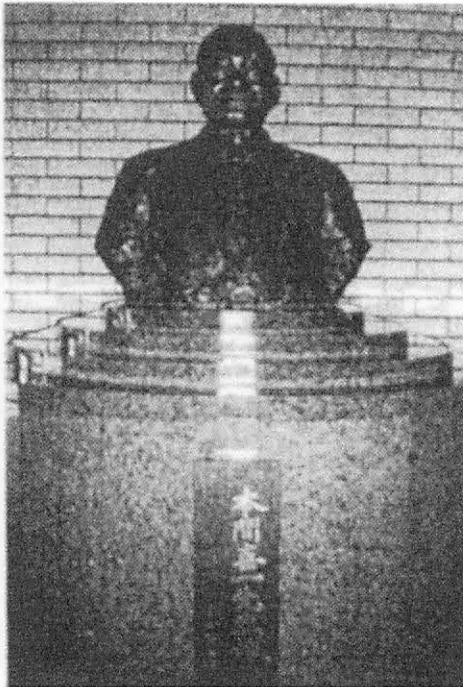
2010年8月27日(金)

東 愛 知 新 聞

本間先生の生誕地に胸像を

顕彰会が愛大通して寄贈

あす山形で



愛知大学記念会館の胸像
本間喜一名譽学長の

愛知大学を創立した
本間喜一名譽学長(1
891~1987)の
生誕地に胸像をと、本
間喜一先生顕彰会(越
知専会長)は、同大を

通して山形県東置賜
郡川西町に、ブロンズ
像を寄贈することにな
った。28日、佐藤元彦学
長が原田俊二・川西町
長に目録を贈呈する。

1945(昭和20年)
の終戦で閉学となった
東亜同文書院大学(上
海)の最後の学長で、
翌年、豊橋に愛知大学
を創立。第2、4代学長

や最高裁判所初代事務
総長を務めた本間氏。
その進取な気性は山
形・米沢地方に育まれ
たと、愛知大学東亜同
文書院大学記念センタ
ー(藤田佳久センター
長は28日、米沢市東部
コミュニティセンタ
ーで「米沢資料展示会・
講演会」米沢が生んだ
本間喜一をめぐって」
を開く。

講演会では、山田邦
明・同大文学部教授が
「米沢地方の歴史風土
と本間喜一」、本間氏
の長女・殿岡晟子さん
が「私の父本間喜一を
語る」、藤田センター
長が「本間喜一がつな
いだ東亜同文書院大学
と愛知大学」と題して
講演するほか、資料・
パネルの展示で、本間
氏の偉業を紹介する。

同顕彰会は、現在愛
知大学豊橋校舎にある
本間氏の胸像(日本芸
術院会員・山本眞輔氏
作)と同じ胸像を生誕
地にもと、川西町側に
寄贈を打診。同町も郷
土の偉人の再発掘につ
ながると快諾した。

今回、同講演会の冒
頭、佐藤学長から原田
町長に、胸像の目録や、
書籍「本間イズムと愛
知大学」、「愛知大学
創成期の群像」各10
00冊など贈呈する。
胸像の設置場所は未
定だが、11月27~29日
に名古屋松坂屋南館で
開催予定の「愛知大学
東亜同文書院資料展示
会講演会」に展示後、
現地に搬送される。

(杉浦文夫)

胸像や著書を山形へ

本間名譽学長の
生誕地・川西町に 町おこし呼応し愛大

きょう贈呈式

愛知大学(佐藤元彦学長)は28日、山形県東置賜(おいたま)郡川西町(原田俊二町長)に、本間喜一・愛知大学名誉学長の胸像と書籍(著書)を贈呈する。川西町は本間名譽学長の生誕地で、偉人再発見をキャッチフレーズに町おこしを行っており、これに呼応して愛大では胸像を贈ることにした。

本間名譽学長は、中国上海の東亜同文書院最後の学長。1946年、豊橋の地の

に愛知大学を開設し、学長として大学発展に尽力してきた。その一方、最高裁判所の事務総長(1947年)も務め、戦後の日本の教育と裁判制度に貢献した。

今回、愛知大学東亜同文書院大学記念センターは28、29日、山形県米沢市東部コミュニティセンターで「米沢資料展不会・講演会」を開く。テーマは「米沢が生んだ本間喜一をめぐって」東亜同文書院大

学から愛知大学そして最高裁判所」。

28日午後1時30分から講演会が開かれるが、贈呈式はその席上行われ、佐藤学長から原田町長に目録が贈呈される。胸像は1・7メートルのブロンズ像で、日本芸術院会員の山本眞輔氏が制作している。完成は11月の予定。書籍は「本間イズムと愛知大学(実例編)」1000冊、「同(資料編)」100冊、「愛知大学創生期の

群像」1000冊の2100冊。

講演会では山田邦明・愛知大学文学部教授が「米沢地方の歴史風土と本間喜一」本間名譽学長の長女・殿岡晨子さんが「私の父本間喜一を語る」、藤田佳久同記念センター長は「本間喜一がつかないだ東亜同文書院大学と愛知大学」をテーマに語る。(鈴木良征)

平成22年(2010年)8月29日(日曜日)

山形 川西 出身 愛知大創立者の故本間氏

「少年期から頑張り屋」

米沢で顕彰講演会 家族ら人柄紹介

現在の山形県川西町玉庭地区出身で、戦後に愛知大(愛知県豊橋市)を創立して学長を務める一方、最高裁初代事務総長などとしても活躍した故本間喜一氏(1891-1987年)を顕彰する

愛知大学そして最高



故本間喜一氏の思い出を語る長女の殿岡さん＝米沢市

講演会が28日、米沢市で開かれた。大学教授と本間氏の家族の話を一50人が聴講した。

玉庭地区で上杉家に仕える武士の子孫として生まれ、東京の親類の養子となる13歳までを過ごした少年時代を愛知大文学部の山田邦明教授が紹介。当時の史料を踏まえ「小学校の皆勤賞や書道の賞をもらうなど頑張り屋だった」と説明した。

本間氏の長女の殿岡最子さんは在りし日の父の姿を語った。「大男でまた下も長く、今のイケメン。家族や周囲の人たちを大切にし、約束は絶対に守る人だった。上杉の武士の心を持っていた」と述懐した。

本間氏ゆかりの品々も多数展示された。日本フエンス協会協会の創立に中心的役割を果たした功績から64年の東京五輪の際に協会から受けた剣のほか、愛用の眼鏡や帽子などが来場者の目を引いていた。

2010年(平成22年)8月27日(金曜日)

山形 川西 出身 愛知大創立者の故本間氏

あひの予定

【米沢】◇愛知大学東亜同文書院大学の講演会「米沢が生んだ本間喜一をめぐって」は午後1時半、東部コミュニティセンター。資料展示会は午前10時、同コミセン。29日も。

2010年(平成22年)8月29日(日曜日)

山 新 新



本間喜一の思い出を語る長女の殿岡 豊子さん(米沢市東部コミュニティセンター)

愛知大の創設者で最高裁判所初代事務総長などを歴任した本間喜一(1891-1987、川西町出身)の功績を約150人が郷土の偉人の足跡に触れた。

川西出身の法律学者本間喜一 資料・講演で功績紹介

米 沢

出身の法律学者。戦前、中国・上海にあった東亜同文書院大の最後の学長を務め、戦後は同大の学生の受け皿となる愛知大の創設に尽力し、最高裁判所の初代事務総長を務めた。

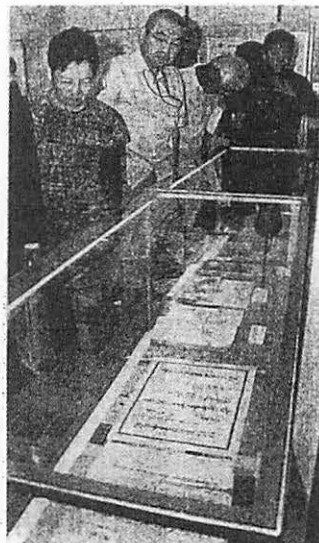
資料展示会・講演会は愛知大東亜同文書院大記念センターが主催。「私の父 本間喜一を語る」と題して講演した長女の殿岡豊子さんは、本間が養子に行った先で寂しい思いをした経験から大変な子煩悩だったとして「子どもを風呂に入れるなど、今で言う『育メン』と家庭での素顔を紹介。「母親に喜んでもらうことが人生の一つの目的だった」と語り、資料展示会はきょう29日まで。

2010年(平成22年)8月29日(日曜日)

山 新 新

本間喜一の偉業展示

最高裁初代事務総長 辞令など50点



川西町出身で、終戦直後に最高裁の初代事務総長を務めた本間喜一(1891-1987年)ゆかりの品を公開する展示会が28日、米沢市花沢町の東部コミュニティセンターで始まった。写真。

裁判官や弁護士、大学教授を歴任した本間は44年、中国・上海の東亜同文書院大学長に就任。敗戦で日本に引き揚げた同大の学生らのため、46年の愛知大(愛知県豊橋市)創立に尽力し、学長を務めた。

展示会は愛知大が主催。会場には、最高裁事務総長に任命された際の辞令、業績を伝えるパネルや写真、愛用品の帽子や眼鏡など計約50点が並んだ。28日は、同大文学部教授らが本間の業績を講演し、約150人が聴き入った。本間の長女、殿岡豊子さんは「父は体格が良く、山形での少年時代は勉強より遊びに夢中だったようだ。家族を大事にし、男女平等を唱えていた」と語った。

展示会は29日も午前10時午後6時に開催。入場無料。

置賜話題の
東西南北

川西町玉庭出身の本間喜一をめぐる講演会・展示会

東京帝国大学に学び、法曹、教育界を歩んだ人生

中国大調査旅行により『支那省別全誌』全18巻を刊行
9巻は敗戦により中止に
上海にあった東亜同文書院
結末した。

（現在の川西町玉庭）に小池熊吉 母くにの次男として 小池家9代目となる現当主 白羽の矢が立った。関ヶ原の戦い以後の小池昌信氏によれば、熊吉が立った。



本間喜格し、半写真

本間喜一が司法試験に合格し、判事になった頃
写真提供 小池昌信氏

種々の業績を残した。それは
語学教育とともに、1904
年の2期生卒業生5人に
よる日英同盟による外務省に
求められた中国の西側調査の
成功で、1907年から最終
学年が25、6名を一班とす
る3カ月から6カ月の中国大
調査旅行が実施されたことに
よる。コースは、当時の欧米
の植民地にあった東部アジア
にも及び、その総コース数は
700にも達し、その成果は
『支那省別年鑑』全18巻の刊行
に結実し、さらにのちに『新

マが集中したが、次第に文化
教育、民衆地理、歴史へも
拡大し、中国の総合的な力
デミックな研究をめざした。

本間喜の生い立ちと
法曹界、教育界を歩いた人生
本間喜は、明治24(7)月
15日、山形県東置賜郡那賀村
父本間則忠へ養子に行く際の喜一
(右端) 写真提供 小池昌信氏

移封された。上杉から族は越後に家宰の鮎川家が、その後は越後へ葉茂（新潟県村上市朝田）から玉庭に移り住んだ。小池家の家系譜によれば、初代は小池次右衛門といひ、寛永年間（1640—1643）上杉家の重臣鮎川備中守時從つて越後郡より玉庭村に居住したと伝わり、「と記されている。玉庭に来た年代に、若干の違いがあるが、鮎川一族の末裔と考えることができよう。

「玉庭村志」によれば、二一の父、小池熊吉は、明治からの近の本間家に養子に入ったもので、勉強がしなと進学してゐる。その経歴を見ると、山形県訓導から山形高等師範校を卒業し、長岡市根拠事務官、大正九年には文部省庶務官（玉庭郷土には「文部部長」と記載）、大正十三年、東京の富士見高等女学校の校長に就任している。喜一が叔父、則忠のためには養子に行くことになったのは、明治36年である。則忠夫婦には子供がなく、喜一は玉庭小から近所の第四中学校か

ら近所の本間家に養子に入ったもので、勉強がしなと進学してゐる。その経歴を見ると、山形県訓導から山形高等師範校を卒業し、長岡市根拠事務官、大正九年には文部省庶務官（玉庭郷土には「文部部長」と記載）、大正十三年、東京の富士見高等女学校の校長に就任している。喜一が叔父、則忠のためには養子に行くことになったのは、明治36年である。則忠夫婦には子供がなく、喜一は玉庭小から近所の第四中学校か

らの文書を出仕している。東洋に行際の際の写真が小池家に残されてゐる。そこには兄公平、姉えい、母ぐにとともに、喜一が写真に見えてゐるが、父鹿吉が書いた見えない「耳寫眞」で知られてゐる。小池家の家系譜には、喜一を本間則忠の甥に送附する事書いてある。喜一が実親、小池姓から本間姓に変わったのは、その後二年後の明治38年である。喜一は玉庭小学校を終へ、まず東京府田の大成学校に入った。それから東京府第四中学校か

にあたる試験トップで合流した。現在の司法試験法科に進み、東京地裁裁判所に司法官補として勤務し、司法官候補・検事・判事となる。しかし、人が人らしく、故くことなくして、東京府立第一商業学校教師となつた。ブラリスに留学し帰国後は東京商大（現在一橋大学）教授、昭和15同年文藝堂の副院長兼東京経済学院の副院長を経て昭和19年に敗戦前まで最後は学長を務めたことになる。

置賜話題の
東 西 南 北

川西町玉庭出身の本間喜一をめぐる講演会・展示会

愛知大学学長、最高裁判所事務総長等を歴任

(1 回目)

愛知県豊橋市に生まれ愛知大
学は明治34年、同書院上海
に開設された東亜同文書院大
学が前身で、上海で地昭和
20年の收戦まで5,000人の
卒業生を世に送り出した。同
書院大生は收戦で閉を余儀
なくされたが、昭和6年、同
書院大生最後の院長長岡啓三
（入場無料）が開催される。

明治元年（1907）中国
近衛篤磨侯爵廣義館議長は
術文藝友相の会（会堂と
する東亜同文会が経営母体）
となり、東亜同文書院が創れ
た。当時、日本、中国などの
地域を統括する東アジアの
ことを「東亜」と呼んでいた
ことからの学校の誤字と考
え、この年、長岡啓三が「東
亜同文書院」の名称を定めた。

当時東亜の国際部だった
東亜同文書院は、中国の書
や経路を通じた優れた日
の人材を養成することを目的
に設立されたが、同時に、明
治32年には中国からの留学生
を受け入れる東京同文書院
と改称している。日中双方の
人材交流の重要性に早くから
気づいた長岡の先見性がある。

上海にあった東亜同文書院
写真提供 愛知大学東亜同文書
院
「東亜同文書院
大学と愛知大
学」、加々美光
行蔵
東亜同文書院
は、当初高等専
門学校の位置づ
けだったが、昭
和4年（1939）は大学

愛知大学東亜同文書院大学の米沢賢
米沢が生んだ本問文をめぐって
～ 東亜同文書院大学から愛知大学へ

講演会 2010年8月28日(土)～29日(日)
開演会 2010年8月28日(土) 13:30～

□「米沢地方の歴史本」と本問書□
山田邦明氏(愛知大学文学部教授)
□「私の父国史を語る」 岡田隆生氏(本問書)
□「本問書」が分ったのは東京同文書院大学から
藤田久氏(愛知大学文学部教授・愛知大学)

主催 愛知大学東亜同文書院大学記念センター・愛知大学
問い合わせ TEL 052-47-41133 Email: coms@u-aichi.ac.jp
会場 愛知大学東亜同文書院大学記念センター

五藤出身は、同大学のスタッフや地元豊橋市の政財界の多大な支援を受けて、6大都市以外で最初の大学を同市に設立、愛知大学の開設者、学長として同大学の発展に尽力した。一方、新憲法のもてど、最高裁判所初代事務総長に請われて就任するなど、戦中・



川西町出身の本間喜一氏
写真提供 愛知大学
東郷岡文書院大学記念センター

イギリス、フランス、アメリカなどの国界があつた上海は、東西の政治、文化、経済交流の公に出で人道の正に発するに因り、豈に彼の環瀛列国

強のうちに侵略を目的にする団体ではなく、日清間の貿易の興隆をもつて、日清の情意を通じさせることこそ「天理の公、人道の正」であるとし

で費用は派遣元の各県が
し、学生は全額無料で学
ことができた。開学から終
の45年間に、約5000
の卒業生を送り出した

戦直後、この書院の修了証書があれば、旧帝国大学系の専大、京大などに無試験入学できたというからまさに「幻の名門校」といって可い。



上海にあった東亜同文書院大学

愛知大学東亜同文書院大学記念センター
写真提供

東亜同文書院
は、当初高等専
門学校の位置づ
けを目的とする
ことを謳ってい
る。(東亜同文
書院創立者近衛
篤麿の人と思想
「東亜同文書
院大学と愛知大
学」・加々美光
行意

知大東洋歴史文庫大学の米沢資料展示会・講演会
 展示は生きた本園をめぐって
 ・東洋歴史文庫大学から知大までそして最良栽培所一
 承会 2010年8月28日(土)・29日(日) 10:00～16:00
 2010年8月28日(土) 13:30～17:00 定員 150名
 米沢地方の歴史風土と本園音一
 山田明男氏(京都大学文学部教授)
 本園の父本園をめぐって 米沢風土(米沢市一員長女)
 米沢の父本園をめぐって 米沢風土(米沢市一員長女)
 藤田久氏(米沢市立米沢高等学校・米沢市立米沢高等学校(米沢市立米沢高等学校))
 米沢市立米沢高等学校(米沢市立米沢高等学校)・米沢市立米沢高等学校(米沢市立米沢高等学校)
 問い合わせ TEL 0552-47-4139 Email:shinobu@nagaoka-u.ac.jp

最終回

立の認可を受けて豊橋に愛知る。それは戦後の最高裁判所 月7日、大学葬を執り行った。

[illegible]

米沢日報

発行所 (株)置賜日報社

〒992-0051

米沢市城北1丁目3-18

TEL 0238(22)7250 (代)

FAX 0238(22)7252

郵便振替口座 02480-8-12628

E-mail: y.nippo@news.email.ne.jp

愛知大、本間喜一氏胸像を川西町へ

生誕地、大学の相互交流に期待

愛知大学(佐藤元彦学長)は28日、川西町に対して同大創立者・学長の本間喜一氏のブロンズ製胸像一基、書籍2100冊を寄贈した。関係者はこの寄贈によって、本間氏が置賜地域で再認識され、将来的に教育、文化などの交流が盛んになると期待される。また、同大学東亜同文書院大学記念センターでは28日から29日にかけて米沢市東部コミュニティセンターで、同町玉庭出身である本間氏をめぐる講演会と展示会を開催している。

28日、講演会冒頭に佐藤学長から原田俊二(川西町長)、本間氏のブロンズ製胸像一基、書籍2100冊を寄贈。ブロンズ像は名古屋市内に住む日本芸術院会員の山本眞輔氏が制作し、今年11月に完成予定で、

銘板、碑文、台座がセットになっている。寄贈を受けた同町では今後、台座の設置方法や場所などの検討を行うとしている。

書籍は、本間イズムと愛知大学実例編(越知專著 愛知



川西町へ寄贈される本間喜一氏胸像

大学東亜同文書院大学記念センター発行)1000冊、本間イズムと愛知大学資料編(同センター発行)1000冊、愛知大学創成期の群像写真集(愛知大学東亜同文書院大学記念センター編)1000冊の計2100冊。町教育委員会などを通して、町内の中学生、高校生らに配布予定で、郷土が生んだ本間氏の人生の歩みとその業績を知ってもらおうことにしている。

ブロンズ像、書籍「本間イズムと愛知大学実例編」及び資料編」は、同大学東亜同文書院大学記念センター客員研究員の越知專氏が愛知大学に指定寄付したもので、改めて大学より寄贈される。越知氏は「自分は本間喜一先生の教え子で、本間先生の生誕地に胸像の建立と書籍が配布されることに感激しています。生徒さんたちが本間先生を見習って、立派な大人になって頂きたいと思っています」と述べ、町でも「有り難く頂戴することになりました」と突然の寄贈に驚いた様子。

関係者らはこの寄贈によって、本間氏が置賜地域で再認識され、将来的に愛知大学と川西町との教育、文化などの交流が盛んになると期待されている。

愛大のルーツ知る

31日に豊橋校舎でシンポ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター(藤田佳久センター長)、オーブ・リサーチ・センター主催のシンポジウム「戦前海外にあった愛大ルーツ校5校の出身学生が語るアジアと愛大」その体験と今日の高等教育への提言」は、31日午後1時30分から愛知大学豊橋校舎記念会館3階で開く。財団法人霞山会、愛知大学同窓会など後援。入場無料。

1901(明治34)年、中国・上海に開学した東亜同文書院大学最後の学長・本間喜一氏の尽力により、愛大は1946(昭和21)年、豊橋市町畑に旧制大学として創立された。その後新制大学とな

のシンポジウムでは、創設期の入学生から海外校での経緯などについて語ってもらい、ルーツを知る機会とする。

出席者は谷藤助(ハルビン学院、愛大25年卒)▽小崎昌業(東亜同文書院、23年卒)▽奥田廣實(京城経専、27年卒)▽佐藤達也(満洲国大学、25年卒)▽園部逸夫(台北高校、創成期の愛大教授)の5氏。コメンテーターは高井和伸氏(弁護士、愛大卒)、座長は藤田センター長が務める。(鈴木良征)

2010年(平成22年)10月30日(土曜日)

言葉

量

衆所

座席

愛知大のルーツ 探るシンポ開催

あす5人が体験語る
1946年に創立された愛知大学のルーツを探ろうと、31日午後1時半から、同大豊橋校舎(豊橋市町畑)の記念会館で、シンポジウム「愛大ルーツ校5校の出身学生が語るアジアと愛大」が開催される。

同大は中国・上海にあった東亜同文書院大学の最後の学長・本間喜一氏の尽力で、書院大を前身に誕生。その際、海外にあった約80もの高校や大学の学生も予科(後の教養部)や学部へ受け入れ、キャンパスは東アジア大学といった雰囲気があったという。今回は書院大、ハルビン学院、京城経専などを経て愛大を卒業、あるいは教官となった5人が、当時の体験を語り、今後の高等教育の在り方について提言する。参加自由。

中

日

衆所

座席

2010年(平成22年)10月30日(土曜日)

愛大ルーツ5校 出身者らシンポ

あす豊橋で
戦前海外にあった旧制大学、旧制高校の出身者5人によるシンポジウム「愛大ルーツ校5校の出身学生が語るアジアと愛大」(愛大東亜同文書院大学記念センター主催)が三十一日午後一時から、豊橋市町畑町の愛大記念会館で開く。入場無料。

参加するのは、愛大の前身の東亜同文書院(中国・上海)のほか、建国大学(旧満洲)ハルビン学院(旧満洲)京城経専(ソウル)台北高校(台湾)出身者ら。愛大は海外からの引き揚げ学生や教員によつて創設された歴史があり、五人は卒業生や教授の息子で、愛大とも縁が深い。シンポジウムの副題は「その体験と今日の高等教育への提言」。藤田佳久センター長は「あまり知られていない実体験に基づく戦前の海外の大学の様子を聞いてほしい」と話す。

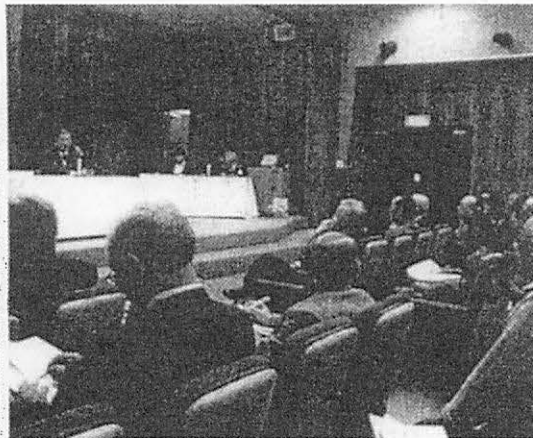
アジア見据え歩むべき道

創設期知る5人の語り部

愛大でルーツ校出身者がシンポ

シンポジウム「戦前海外にあった愛大ルーツ校5校の出身学生が語るアジアと愛大」(愛知大学東亜同文書院大学記念センター、オーブン・リサーチ・センター主催)が31日、愛大豊橋校舎開かれた。東亜同文書院を中心に海外にあった80余の旧制大学、旧制高校、その後の学校と愛大の深いつながりを、同大創設期を知る5人の「語り部」から、当時の史実を聞き取り、愛大が今後の歩むべき道を探った。

(杉浦文彦)



ハルビン学院出身で愛大予科1期、3年編入の谷氏の話を聞く来場者ら＝愛知大学記念会館で

語ったのは、谷藤助(旧満洲・ハルビン在、ハルビン学院出身。愛大25年卒)▽小崎昌業(中国・上海在、東亜同文書院出身。愛大23年卒)▽奥田廣實(朝鮮・京城在、京城経専出身。愛大27年卒)▽佐藤達也(旧満洲・長春在、満洲国大学出身。愛大25年卒)▽園部逸美(台湾・台北在、台北高校出身。創設期の愛大教授。台北帝國大学教授の子息の5氏。

佐藤元彦学長が「日・中・韓の大学間交流連携を進めており、本学の同窓会支部も台湾にも支部を設立予定。台湾にも支部を設立予定。

定、大学の将来もアジアを見据えている」とあいさつ。

また、高井和伸氏(弁護士、愛大42年卒)をコメンテーターに、質疑応答も行われ、来場者からは「愛知大学が、海外からの引揚学生・教員たちによって創設されたことを再認識。三重県から参加した男性は「愛知大学名譽学長の故・本間喜一先生が東亜同文書院大学の最後の学長で、学籍簿や成績簿を上海から持ち帰ったため、愛大の前身が東亜同文書院とされているが、前身も大学構内に住んでいた、訪れるとお酒を大に楽しんでいた。」と驚いていた。

続いて藤田佳久・同記念センター長の司会で5氏がそれぞれ講演。山形地検検事正など歴任した氏は、当時のハルビン学院を、各県の1〜2人選抜され学費は免除。日本各地の視察後に現地に「各県で1〜2人選抜され学費は免除。日本各地の視察後に現地に」

愛大のルーツ探る 豊橋 5校OBらシンポ



戦前の海外の大学の様子を紹介するパネリストら＝豊橋市の愛知大で

シンポジウム「愛大ルーツ校5校の出身学生が語るアジアと愛大」が31日、豊橋市市町町の愛知大であり、同大前身の東亜同文書院(中国・上海)やハルビン学院(旧満洲)などで学んだ5人が戦前の海外の大学の様子などを語った。建國大(同)出身の佐藤達也さんは建國大創立の目的を「国家統治の人材育成のためだった」と紹介。「学生数百五十人に對し、応募は日系が一万、中国東北部系が数千人もおり、非常に狭き門だった」と振り返った。

戦後に愛知大に転入した佐藤さんは、当時の学内の雰囲気にも触れ「大陸帰りの学生が多く、窮乏生活の中で意気軒高と勉強に励んでいた」と回想。「愛大は今後、中国内に寄宿制の学校を設立してアジア各国から学生を募るなどし、アジアの大学として地位を確立してほしい」と提言した。



愛知大創設者・本間喜一の胸像が川西町に贈られた
＝川西町役場

愛知大(愛知県豊橋市)の創設者で最高裁判所初代事務総長などを歴任した本間喜一(1891～1987川西町出身)の胸像と関連書籍が2日、愛知大から川西町に贈られた。

功績 地元に残したい

胸像、書籍町に贈る 愛知大

本間は旧玉庭村(現川西町玉庭)出身の法律学者。戦前、中国・上海にあった東亜同文書院大の最後の学長を務めた。同大の教職員、学生の受け皿として戦後、愛知大を創設。新憲法下で最初の最高裁判所事務総長に就いた。

胸像は、愛知大の元客員研究員で「本間喜一先生顕彰会」の越知専(おち・まこと)会長が私費を投じて制作。日本芸術院会員の山本真輔さんが手掛けたブロンズ製で、台座を含む高さは約2メートルになる。越知さんは「本間先生は人が人を裁くことを真摯(しんし)に考えた、愛のある人。その

人柄は置賜の風土がはぐくんできた」と謝辞を述べた。町は今後、胸像の設置場所を調整するとともに、寄贈書計3千冊を中学校などで活用していく予定。

本間の業績を古里に伝えようと、愛知大東亜同文書院大学記念センターがことし8月、米沢市で資料展示会・講演会を開催。席上、愛知大の佐藤元彦学長が原田俊二町長に胸像と、本間の業績を記した書籍の目録を贈った。

この日は町役場で受贈式が行われ、愛知大や町、玉庭地区から関係者約20人が出席。佐藤学長、越知会長、本間の長女・殿岡晟子さんと原田町長の4人で胸像の除幕を行った。原田町長は「戦後の混乱期に、熱い思いを持って活躍した本町出身者がいたことを今まで知らずにいた。功績を町民、子どもたちに伝えてい

本間喜一

川西町出身・愛知大の創設者

2010年(平成22年)11月20日(土曜日)

言葉

堂

楽

門

愛知大学東亜同文書院大学記念センター資料の 名古屋展示会・講演会

「東亜同文書院から愛知大学へ 一近衛家、荒尾精、孫文、中国アジア大旅行、日中交流一」

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、2006年に文部科学省の学術高度化推進事業であるオープン・リサーチ・センタープロジェクトに採択され、5年間にわたり愛知大学の前身校であり、1901年上海に設立された東亜同文書院大学の研究とその歴史的存在意義を見出してまいりました。このプロジェクトのうち、収蔵資料の公開事業は「東亜同文書院大学から愛知大学へ」をメインテーマとし、これまで横浜からスタートし、東京、福岡、弘前、神戸、シカゴ、京都、米沢など国内外で展開して記念展示会と講演会を行い、その最後を以下の要領で地元名古屋で開催することになりました。この記念すべき会の基調講演には東亜同文書院の院長を務めたあと、戦中に総理大臣に就任した近衛文麿公について「われ果敢に出頭せず」を著され、東亜同文書院記念基金会賞を受賞された工藤美代子氏をお迎えしました。あわせて、当記念センター長による東亜同文書院大学の歩みと、当プロジェクトの展開についてもご紹介いたします。ぜひご関心のある多くの方々にご参加いただければ幸いです。

展示会 2010年11月27日(土)～29日(月)
時間 10:00～18:00
講演会 2010年11月28日(日)
時間 13:30～16:30
場所 松坂屋名古屋店南館8階 マツザカヤホール

講演 1
工藤 美代子 氏
●作家
「近衛文麿公の
「われ果敢に出頭せず」をめくって」



講演 2
藤田 佳久 氏
●東亜同文書院大学記念センター長
愛知大学文学部教授
「東亜同文書院大学から愛知大学へ
ーオープン・リサーチ・センタープログラム事業にも関連してー」



■主催／愛知大学東亜同文書院大学記念センター
オープン・リサーチ・センター
■共催／愛知大学同窓会
■後援／愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会
朝日新聞社・中日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・
日本経済新聞社名古屋支社・(財) 蔵山会



入場無料 どなたでも自由にご参加ください。

お問い合わせ 愛知大学東亜同文書院大学記念センター 〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1
TEL.(0532)47-4139 FAX.(0532)47-4196 E-mail tshien@ml.aichi-u.ac.jp

2010年(平成22年)11月23日(火曜日)

中

日

楽

門

愛知大学東亜同文書院大学記念センター資料の名古屋展示会・講演会

「東亜同文書院から愛知大学へ 一近衛家、荒尾精、孫文、中国アジア大旅行、日中交流一」

展示会 2010年11月27日(土)～29日(月)10:00～18:00

講演会 2010年11月28日(日)13:30～16:30 (定員:200名)

講演 1
工藤美代子 氏 (作家)
「近衛文麿公の
「われ果敢に出頭せず」をめく
って」

講演 2
藤田 佳久 氏
(東亜同文書院大学記念センター長愛知大学文学部教授)
「東亜同文書院大学から愛知大学へーオープン
・リサーチ・センタープログラム事業にも関連
してー」

入場無料 どなたでも自由にご参加ください。

場所
松坂屋名古屋店南館8階 マツザカヤホール
(アクセス:地下鉄名城線「矢場町駅」地下通路直結(5.6番出口)
地下鉄東山線「栄駅」(16番出口)南へ徒歩5分)

主催／愛知大学東亜同文書院大学記念センター／
オープン・リサーチ・センター
共催／愛知大学同窓会 後援／愛知県教育委員会・名古屋市教育委員
会・中日新聞社・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・日本経済
新聞社名古屋支社・(財) 蔵山会

お問い合わせ 愛知大学東亜同文書院大学記念センター 〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1
TEL.(0532)47-4139 FAX.(0532)47-4196 E-mail tshien@ml.aichi-u.ac.jp



孫文や近衛文麿の書も

東亜同文書院大 資料展あすから

愛大前身

愛知大学(豊橋市)の前身で、1901年、日本初の海外高等教育機関として中国・上海に設立された東亜同文書院大学にまつわる資料展示会が27日から29日まで、名古屋市中区、松坂屋名古屋店南館8階のマツザカヤホールで開催される。愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催、読売新聞社など後援。

松坂屋名古屋店

中国革命の父とされ、同書院ともゆかりの深い孫文「写真上」や、院長を務め、後に首相となった近衛文麿「写真下」らの書など約80点の資料やパネルが展示され、愛知大学へとつながるルーツを知ることができる。

期間中の28日午後1時半からは、同ホールで講演会もあり、作家・藤美代子さんが「近衛文麿公の『われ卑鴨に出頭せず』をめぐる」、藤田佳久・愛知大教授が「東亜同文書院大学から愛知大学へ」と題して語る。参加自由。

東亜同文書院大学

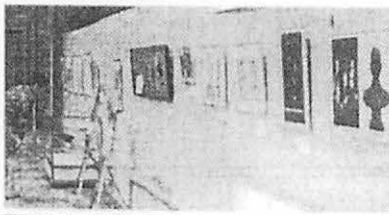
資料展始まる

松坂屋名古屋店、きょう講演会

20世紀の開拓とともに中国・上海に誕生した愛知大学(豊橋市)のルーツ、東亜同文書院大学の歴史的役割を紹介する資料展示会が27日、名古屋市中区の松坂屋名古屋店南館8階のマツザカヤホールで始まった。

書院大学は1945年の廃校まで中国の近・現代史のただ中にあり、中国革命の父、孫文や、3度首相を務めた近衛文麿ら多くの歴史的人物とかわりがあった。これら多彩な人脈が、愛知大が収集した貴重な手紙や電報、掛け軸、写真などの資料で伝えられている＝写真＝。

一方、書院大学の学生は、軍閥が割拠していた当時の中国各地を踏破し、膨大な調査報告書「大旅行誌」をまとめた。会場では旅行の足跡や報告書の原本も並べられ、近代中国の原像を伝える資料として、国際的にも評価されていることが紹介されている。資料展は29日まで。28日午後1時半からは、会場内で近衛文麿や愛知大の草創期を取り上げた講演会も開かれる。



2010年(平成22年)11月28日(日曜日)

2010年(平成22年)11月28日(日曜日)

中

三

乗

昇

東亜同文書院大設立の中心となった人物たちの書などが展示されている会場＝名古屋市中区の松坂屋名古屋店で

上海の東亜同文書院大が前身



上海にあった東亜同文書院大から、後身の文書院大へ。屋市中区の松坂屋名古屋店(豊橋市)まで無料。二十九日まで。の歩みをたどる資料展 愛知大東亜同文書院大(中日新聞社など後 記念センター主催。援)が二十七日、名古屋 書院大は日中友好を

愛大設立の歩みたどる

名古屋 書や孫文の暗号表など展示

理念に一九〇一(明治三十四)年に設立された。近衛文麿の父近衛篤磨がかかわった。会場には近衛篤磨や当時の書院大に影響を与えた日清貿易研究所長の荒尾精の書など百点以上の資料が並ぶ。荒尾精は尾張出身で、日中の経済発展に尽力した。書院大を支えた山田良政、純三郎兄弟とともに中国革命に参加した孫文の暗号表も紹介されており、当時の緊迫した情勢をつかわせる。

二十八日午後一時半から『われ果敢に出頭せず―近衛文麿と天皇』を著した作家の工藤美代子さんと、藤田佳久センター長の講演もある。東京、シカゴなどに続く九回目の展示。(塚田真裕)

2011年(平成23年)1月21日(金曜日)

東 愛 知 新 聞

愛大の若手研究者が発表会

東亜同文書院大学記念センター

愛知大学東亜同文書院大学記念センターの

大学記念館について、武井義和氏が「創

若手研究者5人の研究発表会が20日、同大豊橋校舎で開かれ、書院大に関する研究成果を伝えた。

生のフルンボイル調査を中心に」、広中一成

源調査」をテーマに語った。

期の内蒙古の地域像」、曉敏氏が「書院録からみた20世紀前半

氏が「内田茂二(書院4期生)の華北硝石資源調査」をテーマに語った。



うち武井氏は「京都支部には京都の経済界を代表する経営者や弁護士、医師らがメンバーだった」などと報告した。

(竹下貴信)

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センター

愛知大学史企画展示

愛知大学豊橋キャンパスに残る木造建築物から愛知大学史をかたり、創成期を中心とした学生・卒業生の活躍のあゆみを紹介する展示会を企画しました。

2010年5月20日(木)～7月17日(土)

入場無料 10:00～16:00 (日・月曜日休館)

愛知大学生・卒業生の活躍のあゆみ

愛知大学創成期の運動部・文化部の活動や愛知大学の代表的な卒業生について紹介いたします。

豊橋校舎の地が軍隊の敷地だった頃

愛知大学豊橋校舎内に残る「旧陸軍施設」について紹介いたします。

会場 愛知大学豊橋校舎 大学記念館展示室

※豊橋鉄道渥美線「愛知大学前」下車すぐ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センター

〒441-8522 豊橋市町畑町1-1 電話 (0532) 47-4139 FAX (0532) 47-4196
愛知大学豊橋研究支援課 Email tshien@ml.aichi-u.ac.jp



ハルビン学院 校舎

建國大学 正門

東亜同文書院 正門

愛知大学東亜同文書院大学の 京都資料展示会・講演会

大陸にあった日本の高等教育機関と東亜同文書院

戦前、大陸に日本の高等教育機関がそれぞれの目的で開設された。それらの学校はなくなったが、その後の時代の中で卒業生達はその経験を多面的に継承してきた。それらの経験をふまえ、数少なくなった卒業生達が自分達の貴重な在学経験を中心に伝えて、かつ卒業生の人生経験をふまえつつ、今日の日中関係や国際関係のあり方への新たなメッセージを発信する。

展示会 2010年7月17日(土)~18日(日)

場所 コープ・イン・京都 2階

時間 10:00~18:00

講演会 2010年7月17日(土)

会場 コープ・イン・京都 2階

時間 13:30~17:00 定員150名

- 1 佐藤達也氏 建國大学
「建國大学と私」
- 2 谷 藤助氏 ハルビン学院
「ハルビン学院と私」
- 3 小崎昌業氏 東亜同文書院大学
「東亜同文書院(のち大学)と私」
- 4 藤田佳久氏 愛知大学文学部教授・愛知大学東亜同文書院大学記念センター長
「東亜同文書院のあゆみと中国大調査旅行」
- 5 武井義和氏 愛知大学東亜同文書院大学記念センター ポストドクター
「東亜同文書院に入学した京都府出身者~明治・大正期の府費生を中心に~」

交通のご案内 JR京都駅から地下鉄 烏丸線「四条駅」
⑬番出口より徒歩5分
JR京都駅よりタクシーで約10分



東方斎・荒尾精先生追悼式も実施

追悼式 2010年7月18日(日)

場所 若王子神社 荒尾精追悼碑前
(哲学の道 入口横) 京都市左京区若王子町2

当記念センターでは、今回京都でのこの展示会と講演会開催にあたり、東亜同文書院の創設にかかわった東方斎・荒尾精先生を近衛篤磨公がたたえた墓碑に参拝し、あわせて書院初代院長根津一先生および近衛公の三先覚の追悼式を行います。

■主催/愛知大学東亜同文書院大学記念センター/オープン・リサーチ・センター
■共催(財)霞山会
■後援/京都府教育委員会/京都市教育委員会/読売新聞大阪本社/愛知大学同窓会

お問い合わせ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL0532-47-4139 FAX0532-47-4196 E-mail tshien@ml.aichi-u.ac.jp

入場無料

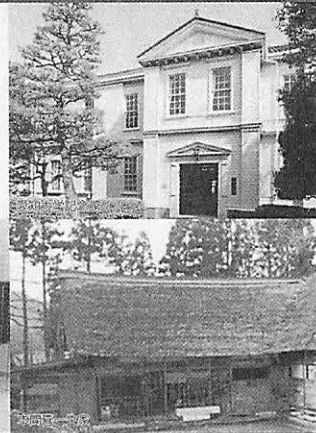
どなたでも
ご自由にご参加
ください。

愛知大学東亜同文書院大学の 米沢資料展示会・講演会

米沢が生んだ本間喜一をめぐって

— 東亜同文書院大学から愛知大学そして最高裁判所 —

1901年上海に開学し、1945年敗戦によって閉学となった東亜同文書院最後の学長であった本間喜一は、日本に引き揚げるとすぐ書院を継承するべく、1946年豊橋の地に愛知大学を開設し、学長に就任して愛知大学の発展に尽力しました。その一方、最高裁判所の事務総長も努め、戦中戦後の日本の教育と裁判制度に大きく貢献しました。本間喜一は山形県東置賜郡川西町の出身で、その進取な気性は米沢地方の伝統と文化に育まれたものです。そこで今回、この地方が生んだ本間喜一を広く知っていただくために、本間喜一をめぐる講演会と展示会を当地で開催いたします。この機会に郷土米沢が生んだ本間喜一に少しでもふれていただければ幸いです。



展示会 2010年8月28日(土)～29日(日) 10:00～18:00

場所: 米沢市東部コミュニティセンター

講演会 2010年8月28日(土) 13:30～17:00 定員150名

場所: 米沢市東部コミュニティセンター

入場無料

どなたでも
ご自由にご参加
ください。

■「米沢地方の歴史風土と本間喜一」

山田 邦明氏(愛知大学文学部教授)

■「私の父 本間喜一を語る」殿岡 晟子氏(本間喜一氏 長女)

■「本間喜一がつないだ東亜同文書院大学と愛知大学」

藤田 佳久氏(愛知大学文学部教授・愛知大学東亜同文書院大学記念センター長)



主催: 愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センター

後援: 山形県教育委員会、米沢市教育委員会、川西町教育委員会、(財)霞山会、愛知大学同窓会

お問い合わせ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センター

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL (0532) 47-4139 FAX (0532) 47-4196

愛知大学豊橋研究支援課 E-mail: tshien@ml.aichi-u.ac.jp



国内シンポジウム 愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センター

戦前海外にあった 愛大ルーツ校5校の 出身学生が語るアジアと愛大

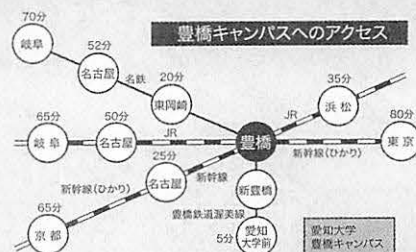
— その体験と今日の高等教育への提言 —

愛知大学は1901年上海に開学した東亜同文書院大学の最後の学長・本間喜一の尽力によって、1946年に旧制大学の愛知大学として創立されました。その際、書院を中心としながらも海外にあった80余の旧制大学、旧制高校の出身者も新生愛知大学の予科(のちの教養部)と学部へ入学し、愛知大学の新たな学生、そして一部は教員として出発しました。このように愛知大学は海外からの引揚げ学生・教員によって創設された、いわば東アジア大学とでもいうべき従来例をみない大学でありました。今回のシンポジウムは愛知大学の創設期における入学生の海外校での経緯と愛知大学での経緯を語っていただき、愛知大学のルーツ(原点)を広く知っていただくとともに、今後の愛知大学の歩むべき指針になればと企画しました。この機会に愛知大学の学生諸君や関係者、さらに広く市民の方々にも御参加いただければ幸いです。

日時 **2010年10月31日(日)**
13:30~17:30

場所 **愛知大学豊橋校舎**
記念会館3階小講堂

※豊橋鉄道渥美線「愛知大学前」駅下車すぐ



1 谷 藤助氏

旧満州・ハルビン在、
ハルビン学院出身、
愛大25年卒



2 小崎 昌業氏

中国・上海在、
東亜同文書院出身、
愛大23年卒



3 奥田 廣實氏

朝鮮・京城(ソウル)在、
京城経専出身、
愛大27年卒



4 佐藤 達也氏

旧満州・長春在、
満州建国大学出身、
愛大25年卒



5 園部 逸夫氏

台湾・台北在、台北高校出身、第
四高校、創成期の愛大教授(行政
法・台北帝国大学教授の子息)



コメンテーター
高井 和伸氏

弁護士、
愛知大学42年卒

座 長 | 藤田佳久教授 東亜同文書院大学記念センター長

懇親会 | 学内レストラン リュミエール 17:30~(無料)

■主催／愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センター
■後援／(財)震山会、愛知大学同窓会、第64回愛大祭実行委員会

お問い合わせ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL0532-47-4139 FAX0532-47-4196 E-mail tshien@ml.aichi-u.ac.jp

入場無料

どなたでも
自由にご参加
ください。

愛知大学東亜同文書院大学記念センター資料の 名古屋展示会・講演会

「東亜同文書院から愛知大学へ
—近衛家、荒尾精、孫文、中国アジア大旅行、日中交流—」

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、2006年に文部科学省の学術高度化推進事業であるオープン・リサーチ・センタープロジェクトに採択され、5年間にわたり愛知大学の前身校であり、1901年上海に設立された東亜同文書院大学の研究とその歴史的存在意義を見出してまいりました。

このプロジェクトのうち、収蔵資料の公開事業は「東亜同文書院大学から愛知大学へ」をメインテーマとし、これまで横浜からスタートし、東京、福岡、弘前、神戸、シカゴ、京都、米沢など国内外で展開して記念展示会と講演会を行い、その最後を以下の要領で地元名古屋で開催することになりました。

この記念すべき会の基調講演には東亜同文書院の院長を務めたあと、戦時中に総理大臣に就任した近衛文麿公について『われ果敢に出頭せず』を著され、東亜同文書院記念基金会賞を受賞された工藤美代子氏をお迎えしました。あわせて、当記念センター長による東亜同文書院大学の歩みと、当プロジェクトの展開についてもご紹介いたします。ぜひご関心のある多くの方々にご参加いただければ幸いです。

展示会 2010年11月27日(土)～29日(月)
時 間 10:00～18:00

講演会 2010年11月28日(日)
時 間 13:30～16:30

場 所 松坂屋名古屋店南館8階 マツザカヤホール



講演
1

工藤美代子氏

●作家

「近衛文麿公の
『われ果敢に出頭せず』をめぐって」

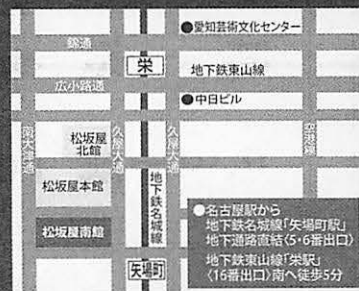


講演
2

藤田 佳久氏

●東亜同文書院大学記念センター長 愛知大学文学部教授

「東亜同文書院大学から愛知大学へ
—オープン・リサーチ・センタープログラム事業にも関連して—」



入場無料 どなたでも自由にご参加ください。

■主催／愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センター


■共催／愛知大学同窓会

■後援／愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・朝日新聞社・中日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・日本経済新聞社名古屋支社・(財)霞山会

お問い合わせ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL. (0532) 47-4139 FAX. (0532) 47-4196 E-mail tshien@ml.aichi-u.ac.jp



東亜同文書院大学記念センター 若手研究者研究発表会

日 時 2011年1月20日(木)
午後2時～

場 所 豊橋校舎研究館第1会議室
名古屋校舎研究館第4会議室

- 佃隆一郎 愛知大学記念館について
—歴史、史料、これまでの研究—
- 武井義和 創立前後の東亜同文会京都支部について
- 高木秀和 「大旅行」記録からみた
20世紀前半期の内蒙古の地域像
- 暁 敏 書院生のフルンボイル調査を中心に
- 広中一成 内田茂二(書院4期生)の華北硝石資源調査

(発表順)

【お問い合わせ先】
愛知大学 東亜同文書院大学記念センター
〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1
TEL 0532-47-4139 FAX 0532-47-4196

入場無料
参加自由